#### 1/3,AB/1 DIALOG(R) File 351: Derwent WPI (c) 2003 Thomson Derwent. All rts. reserv. 008836028 WPI Acc No: 1991-340045/199146 XRAM Acc No: C91-146846 XRPX Acc No: N91-260492 Efficient photovoltaic cell for solar energy conversion - having titanium dioxide layer coated with photosensitive dye in contact with redox electrolyte system Patent Assignee: GRAETZEL M (GRAE-I); ECOLE POYTECHNIQUE FED LAUSANNE (ECOL-N); ECOLE POLYTECHNIQUE FEDERALE LAUSANNE (ECOL-N) Inventor: GRAETZEL M; NAZEERUDDIN M K; OREGAN B; NAZEERUDDIN M; O'REGAN B; NAZEERUDDI M Number of Countries: 018 Number of Patents: 011 Patent Family: Kind Patent No Kind Date Applicat No Date Week WO 9116719 A 19911031 199146 AU 9177483 Α 19911111 199207 EP 525070 19930203 EP 91908382 Α 19910417 199305 WO 91EP734 19910417 JP 5504023 JP 91507923 19930624 19910417 199330 WO 91EP734 Α 19910417 19940707 AU 650878 В AU 9177483 A 19910417 199431 US 5350644 WO 91EP734 Α 19940927 Α 19910417 199438 US 92941073 Α 19921015 WO 9116719 **A**3 19920123 WO 91EP734 -**A** 19910417 199510 EP 525070 B1 19951220 EP 91908382 -- A 19910417 199604 A== 19910417 WO 91EP734 DE 69115688 19960201 DE 615688 19910417 199610 EP 91908382 19910417 WO 91EP734 Α 19910417 JP 96015097 B2 19960214 JP 91507923 19910417 WO 91EP734 Α 19910417 ES 2080313 19960201 EP 91908382 **T**3 Α 19910417 199612 Priority Applications (No Type Date): GB 9024831 A 19901115; GB 908512 A 19900417 Patent Details: Patent No Kind Lan Pg Main IPC Filing Notes WO 9116719 Designated States (National): AU JP KR US Designated States (Regional): AT BE CH DE DK ES FR GB GR IT LU NL SE EP 525070 A1 E 37 H01G-009/20 Based on patent WO 9116719 Designated States (Regional): AT BE CH DE ES FR GB IT LI NL SE JP 5504023 W 16 H01M-014/00 Based on patent WO 9116719 AU 650878 H01L-031/032 Previous Publ. patent AU 9177483 Based on patent WO 9116719 US 5350644 Α 11 H01M-006/36 Based on atent WO 9116719 B1 E 18 H01G-009/20 EP 525070 Based on patent WO 9116719 Designated States (Regional): AT BE CH DE ES FR GB IT LI NL SE DE 69115688 Ε H01G-009/20 Based on patent EP 525070 Based on patent WO 9116719

12 H01M-014/00

H01G-009/20

Based on patent JP 5504023 Based on patent WO 9116719

Based on patent EP 525070

JP 96015097

ES 2080313

B2

Т3

#### Abstract (Basic): WO 9116719 A

A photovoltaic cell comprises a light-transmitting electrically conductive layer deposited on a glass plate or a transparent polymer sheet to which one or more pref. porous high surface-area Ti dioxide (TiO2) layers have been applied. The last TiO2 layer (and opt. also the second from last and third from last layers) is doped with a metal ion from a divalent or trivalent metal.

USE/ADVANTAGE - Provides efficient solar energy cell, having higher efficiency than Si-based solar cell, and is able to convert diffuse light more efficiently. Can be irradiated from either side or both sides. Invented cell operates as a majority carrier device so that cell voltage depends less strongly on intensity of impinging light.

Dwg.1/1

Abstract (Equivalent): EP 525070 B

A solar-light-responsive photovoltaic cell comprising a first electrode (4, 5, 6, 7) including (i) a light transmitting electrically conductive layer (6) deposited on a glass plate (7) or a transparent polymer sheet; (ii) at least one porous high surface area titanium dioxide layer (5) applied to said light transmitting electrically conductive layer (6); (iii) a dopant applied to at least the outermost titanium dioxide layer, said dopant being selected from a divalent metal ion, trivalent metal ion and boron; and (iv) a photosensitiser (4) applied to the dopant-containing TiO2 layer (5), said photosensitiser being attached to the TiO2 layer by means of interlocking groups, said interlocking groups being selected from carboxylate groups, cyano groups, phosphate groups and chelating groups with pi-conducting character selected from oximes, dioximes, hydroxy quinolines, salicylates and alpha-keto-enolates.

Dwg.1/1

Abstract (Equivalent): US 5350644 A

Solar-light-responsive photovoltaic cell comprises a first electrode comprising (i) a light transmitting electrically conductive layer deposited on a glass plate or transparent polymer sheet; (ii) at least one porous, high surface area TiO2 layer applied to (i); (iii) a dopant selected from divalent or trivalent metal ions and B, applied to the outermost TiO2 layer and opt. to the 2nd and 3rd outermost layers; and (iv) a photosensitiser (O) applied to the dopant-contg. TiO2 layer, attached to the layer by interlocking gps. selected from carboxylate, CN, phosphate gps., and chelating gps. with conducting character selected from (di)oximes, hydroxy quinolines, salicylates and alpha-keto-enolates. The cell further comprises a second electrode and a means for permitting the output of an electrical current generated by the cell.

The photosensitiser is selected from e.g. (MCla)(Lg)(X)), where M = Ru, Os or Fe; La = e.g. opt. substd. 2,2'-bipyridyl by 1 or 2 CO2H gps.; opt. substd. 2,2'-biquinoline by 1 or 2 carboxy gps.; Lg = e.g. terpyridyl, opt. substd. phenyl by CO2H and dicarboxypyridine; and X = halo, H2O, CN, prim. and sec. alkylamine, and/or pyridine.

ADVANTAGE - The photosensitising dyes an be coated on TiO2 films rendering such devices effective in the conversion of visible light to electrical energy.

Dwg.0/1

## 19日本国特許庁(JP)

# ⑫公表特許公報(A)

⑩特許出願公惠

 $\Psi 5 - 504023$ 

個公表 平成5年(1993)6月24日

@Int. Ci. \*

識別記号

庁内整理番号

審査請求有 予備審査請求 有

部門(区分) 7 (1)

H 01 M G 03 F H 01 G

8222-4K 9019-2H 7924-5E P

(全 16 頁)

❷発明の名称 光電池

> 類 平3−507923 **创炸** 8929出 願 平3(1991)4月17日

**國翻訳文提出日** 平 4 (1992)10月16日 ❷国 際 出 願 PCT/EP91/00734 **匈国際公開番号 WO91/16719** @国際公開日 平3(1991)10月31日

優先権主張 砂1990年4月17日

タイギリス(CB)

砂9008512.7

700発明 グレツエル、ミヒヤエル スイス国、ツエー・ハーー1015・サン・シュルビス、シュマン・ド

ユ・マルキザ・7・アー

の出 頭 人 グレツエル、ミヒヤエル スイス国、ツエー・ハーー1015・サン・シュルピス、シュマン・ド

ユ・マルキザ・7・アー

四代 理.人 弁理士 川口 養雄 外3名

のお 定 国

\_\_\_\_

AT(広域特許), AU, BE(広域特許), CH(広域特許), DE(広域特許), DK(広域特許), ES(広域特 許),FR(広域特許),GB(広域特許),GR(広域特許),IT(広域特許),JP,KR,LU(広域特許),NL (広域特許), SE(広域特許), US

最終頁に続く

#### 請求の範囲

1. Iつ以上の好ましくは多孔質で高表面積の二酸化チタ ン層が付与されたガラスプレートまたは透明ポリマーシー ト上に埃積された光波過性導電層であって、少なくとも最 後の二酸化チタン層(必要によっては最後から2番目及び 最後がら3番目の層も)が、二倍または三価金属から選択 された会量イオンでドーピングされている項母層 を含む光電池。

- 2. 1)少なくとも一方が透明であり且つ60%以上の可 視光透過率を有する2つの電極であって、アレートがこれ ら電板間の中空部を規定するように配置されており、前記 中空部内には電解液が位置しており、前記一方の透明な電 後が更に無解液被覆二酸化チタン膜を有している電極と、
- ji) 駐電池によって生成された電波の通行を可能とする 手段

とを備えている光電池であって、前記膜の電解液接触表面 が、二個及び三個金属及びホウ素から選択される少なくと も1種のイオンでドーピングされているという改良がなさ れている米食油、

3. 光増感染料が、ドープされたTiO\*層に塗布されて

いる確求項1または2に配載の光電池。

4. 遷移金属錐体光増感剤で装覆した、厚さ0.1~50 ミクロンを有する二酸化チタン膜を堆積した第1の等電性 アレートと、

Ti0、被獲は今まず日つ輝い電解液層によって前記第 1のアレートから分離されている第2の伝導性アレートと を含む光電池であって、少なくとも一方のアレートの可視 光透通率が60%以上である光電池。

- 5. 対型紙(前記載2のプレート)が遅い型無無謀所で装置 されている競求項4に記載の光電池。
- 6. 光増感剤が二酸化チタンの表面に塗布されている請求 項1から5のいずれか一項に記載の光電池。
- 7、前記電解液がレドックス系(電荷移動リレー)を含む講 求項4から6のいずれか一項に記載の光電池。
- 8 要質的に図面を参照して説明された光電池。
- 9. ガラスを特体上の透明な丁i03層からなる常権。
- 10.配位子が二座、三座または全座のポリピリジル化合 物である、未置換のまたは置換されている差移金属錯体か らなる光増患験料であって、例えば化合物:

 $[M(L^*)(L^*)(\mu - (NC)M(CN)(L^*)(L^*))_*]$ 

(1)

#### 特表平5-504023 (2)

$[M(L^*)(L^*)(\mu - (NC)M(L^*)(L^*)\mu - (CN)M(CN)(L^*)(L^*))_t]$	(2)
$[M(L^*)(L^*)(\mu - (NC)M(L^*)(L^*)\mu - (CN))_*M(L^*)(L^*)]$	(3)
$[(L^*)(L^*)(X)M \mu - (NC)M(CN)(L^*)(L^*)]$	(4)
$[M(L_{\bullet})(L_{\bullet})(X)^{1}]$	(5)
[M(L*)(L*)]	(6)
$[M(L^*)(L^*)(\mu - (NC)M(L^*)(L^*))_{z}]$	(7)
$[M(L^{*})(L^{*})(\mu - (NC)M(L^{*})(L^{*})\mu - (CN)M(L^{*})(L^{*}))_{z}]$	(8)
$[M(L^*)(L^*)\mu - (NC)M(L^*)(L^*)]$	(9)
[M(L')(L')(X)]	(10)

(式中、各Mは独立に、ルテニウム、オスミウムまたは鉄から選択され、μー(CN)またはμー(NC)は、シアノ基が2つの金属原子を架積していることを示しており、

し。、し、し、及びし。の各々は独立に、未置機のまたは 1 つもしくは 2 つの C O O H 基で置換された 2 、2 ' ー ビビ リジル: C ...。 アルキル、 C ...。 アルコキシ及びジフェニ ルから選択される 1 つまたは 2 つの器で置換された 2 、2 ー ビビリジル:未置換のまたは 1 つもしくは 2 つのカルボ キシ基で置換された 2 、2 ' ー ビキノリン;未置換の、或い は、 1 つもしくは 2 つのカルボキシ基及び/または 1 つも しくは 2 つのヒドロキシ基及び/または 1 つもしくは 2 つ

\_\_\_\_

のジオキシム基で置換されたフェナントロリン: パソフェ ナントロリンジスルホン酸: ジアザーヒドロキシーカルポ キシートリフェニレン: カルポキシピリジン: フェニルピ リジン: 2・2'ーピス(ジフェニルホスフィノ)ー1・1'ー ピナフタレン: (ピリジルアゾ)レゾルシノール: ピス(2 ーピリジル)C・・・アルカン: テトラC・・・アルキルエチレ ンジアミン: 及びジーC・・・アルキルグリオキシムから選 択され

し\*は、(来面換の、または未面換もしくはCOOHで置換されたフェニル基で置換された)テルピリジル及びジカルボキシーピリジン(好ましくは2,6 - ジカルボキシーピリジン)から選択され、

各Xは独立に、ハロ、H = O、CN、アミン(第一級または第二級アルキルアミン)及び/またはピリジンである] \*\*\* である光増感染料。

# 明 超 香

本発明は新規の選移金属染料及びそれらの光電池における使用に係わる。かかる染料は、二酸化チタン膜を被覆して可視光から電気エネルギーへの変換においてデバイスを 有効にすることができる。

二酸化チタン酸(層)は半導体特性が良く知られており、この特性によって光電池に有用となっている。しかしながら二酸化チタンは大きなパンドギャップを有しており、使ってスペクトルの可視領域の光を吸収しない。太陽光利用においては、太陽が光を発する波長域、即ち300~2000mmの光を集める光増感剤で二酸化チタン膜を被覆することが重要である。熱力学的考察からは、820mm以下の波長を有する全ての放射光子が光増感剤によって吸収されるときに、最も効率的に太陽エネルギーから電気への変換が行われることが判っている。使って太陽光変換に最適な染料は800mm近傍に吸収開始域(absorption oaset)を有し、吸収スペクトルは、可視領域全体をカバーするようなものであるべきである。

効率的な太陽光エネルギー変換のための第2の必要条件 は、光を吸収し従ってエネルギーが豊富な状態を復得した 使の報料が、電子を二酸化チタン原の伝導帯中に実用的な単位の量子効率で放出し得ることである。このためには、 染料が二酸化チタンの表面に適当な結合器(interlocking group)を介して結合することが必要である。結合器の機能は、染料の発色截と半導体の伝導帯との間に電気的結合を、 提供することである。このタイプの電気的結合は、励起状 提供することである。このタイプの電気的結合は、 最の染料と伝導帯との間の電子の移動を容易にするために 必要とされる。適当な結合器としては、カルボキシレート あ、シアノ基、ホスフェート基、または、オキシム、ジオ キシム、ヒドロキシをである。は、オリチレート化基を挙げる ことができる。光電池が作動されているときには、染料に よって光注入された電子は外部回路中に電流を生成する。

1. 以上の好ましくは多孔質で高表面積の二酸化チタン層が付与されたガラスアレートまたは透明ポリマーシート上に堆積された光透透性等電層であって、少なくとも最後の二酸化チタン層(必要によっては最後から2番目及び最後から3番目の層も)が、二個または三個金属から選択された金属イオンでドーピングされている導電層

本発明によれば、

を含む光電池が提供される。

更に本発明によれば、

-

- i) 少なくとも一方が透明であり且つ60%以上の可視 光透過率を有する2つの電報であって、プレートがこれら 電極間に中空部(receptacle)を想定するように配置されて おり、中空部内には電解液が位置しており、前配一方の透 明な電極が更に電解液被覆二酸化チタン膜を有している電
- ii) 該電池によって生成された電流の通行を可能とする 手段

とを値えている光電池であって、前記膜の電解液接触表面が、工価及び三価金具及びホウ素から選択される少なくとも 1 種のイオンでドーピングされているという改良がなされている光電池が提供される。

本発明の目的において、ドーパントは二酸化チタンの表面、即ち二酸化チタン/電解液の界面またはその極めて近傍に閉じ込められることが不可欠である。これを行なう好ましい方法は、一連の二酸化チタン層を次々と上に重ねて与え、最後の3つの層までがドーパントを含むようにすることである。最後の4つの層がドーパントを含むのも好ま

光増感剤は二酸化チタンの表面に塗布するのが好ましい。 光増感剤は、ルテニウム、オスミウム、鉄通移金属蜂体、 またはこれらの組合せから遅択されるのがより好ましい。

電解液はレドックス系(電荷移動リレー)を含むのが好ましい。好ましいこのような系としては、ヨウ素/ヨウ素溶液、臭素/臭素溶液、ヒドロキノン溶液、または未結合電子を運搬する運行を重複体溶液を挙げることができる。電解液中に存在する電荷移動リレーは延存を一方の電極から他方の電極へと運搬する。電荷移動リレーは延存な仲介物質として作用し、電池の作動の間に化学的変化を受けない。本発明の光電池における電解質は、二酸化チタンに堕布された染料が不堪性を示すような有機媒質中に溶解しているのが好ましい。これは、電池が長期安定性を有するという利点を与える。

電解液に好ましい有機溶剤としては、限定的ではないが、水、アルコール及びその混合物、炭酸プロピレン、炭酸エチレン及びメチルピロリドンのような非揮発性溶剤、非揮発性溶剤と例えばアセトニトリル、エチルアセテートまたはテトラヒドロフランのような粘性低下剤との混合物を挙げることができる。別の溶剤としてはジメチルスルホキシ

しいが、最後の層のみがドーパントを含むのはより好まし

光増返用染料は、ドービングしたTiO1層に並布するのが好ましい。このような光増感剤は、ルテニウム、オスミウムもしくは鉄錆体、または1つの超分子錯体中の2つもしくは3つの選移金属の組合せであるのが好ましい。

好ましくは本発明の光電池は、

選移金属銀体光増販剤で被覆された、好ましくは厚さ0. 1~50ミクロンを有する二酸化チタン膜が堆積された導性作の第1プレートと、

TiO:コーティングをもたず且つ薄い電解液層によって第1プレートから分離されている伝導性の第2プレートとを含み、少なくとも一方のプレートの可視光(好ましくは太陽光)透過率が60%以上である。

第2 アレート("対価"としても公知である)は薄い電極 触媒層(好ましくは厚さ10ミクロン以下)で被覆すること もできる。電極触媒の役割は、対極から電解液への電子の 移動を容易にすることである。対極になし得る別の変更は、 最初に電解液及び第1 アレートを通過してその上に到達し た光を反射するようにすることである。

ドまをはジクロロエタンを挙げることができる。 混和性であるならば、上記海刺の任事の混合物を使用することもできる

二酸化チャン酸は1より大きい程度を有するのが好ましい。但し程度とは、真の表面積対見掛けの表面積の比と定義される。程度は10~1000であるのがより好ましく、50~200であるのが最も好ましい。二酸化チャン層は、2つの方法の一方を使用して伝導層の表面上に構築するのが好ましい。1つは、"Stalder and Augustynski,J.Eiectrochem。Soc・1979,126:2007"及び実施例35に記載の"ソルーゲル法"であり、もう1つは、実施例35及び37に記載の"コロイド法"である。

本見明の電池の透明プレートに使用するガラスまたはボリアレートは、プレートが好ましくは60~99%、より好ましくは85~95%の可視光透透率を有するように光透過等電層がその上に堆積された任意の透明ガラスまたはポリマーである。透明伝導層は、10公/cm<sup>2</sup>以下、好ましくは1~10公/cm<sup>2</sup>の表面抵抗を有するのが好ましい。本発明の光電池に使用する透明伝導層は約0.8原

# 特表平5-504023 (4)

3. 本見明の電池は多数キャリヤデバイスとして動作するということの更なる結果として、電池電圧が入射光の強度に左右される程度は通常の太陽電池よりも小さい。従って、過常の電池の効率が散乱光下または最天下で急速に低

例えばガラスプレートに対しては無視し得るほどである。

子名のファ素をドーピングした二酸化スズでできているのが好ましい。この層を、低コストのソーダ石灰フロートガラスでできた透明基板上に堆積する。このタイプの伝導性ガラスは、Asahl Glass Company、しtd.東京、日本からTCOガラスの商品名で入手することができる。透明伝導層は、ガラス基板上に堆積した、酸化スズを5%以下の量でドーピングした酸化インジウムで製造することもできる。これは、BalzersからITOガラスの商品名で入手することができる。

本発明の光電池は、既存の電池と比較して以下の利点を 有する。

1. 通常の太陽電池に匹散し得る充填係数(fill factor)を維持しつつ、通常の電池よりも高い開回路電圧を有する。但し充填係数とは、光エネルギー変換に最適な電池電圧における電気出力を開回路電圧と短絡電流の積で除算したものと定義される。高い期回路電圧は、より小さい開回路電圧を有する通常の光電池よりも低い抵抗損で電池を作動することができるので、実用化において極めて重要である。

\_\_\_\_\_

2. 半導体が光吸収及びキャリヤ輸送の機能を同時に果たすp-n接合固相太陽電池とは対照的に、本発明の光電

下するのに対して、本発明の電池はかかる条件下で高い効率を維持する。

- 4. 適当な換料を選択することにより、電池を大陽エネルギー変換に関して最適化することができる。本発明の光電池は光吸収の最適しきい値被長を820 nmに有しており、これに対応するエネルギーは1.5 e V である。かかる電池は、シリコンをベースとする電池よりも高い太陽光変換効率を適成し得る。
- 5. 本発明の光電池は、既に公知の系よりも効率的に散 乱光を電気に変換することができる。
- 6. 好ましい本発明の光電池の更なる利点は、前面、背面または両面から照射し得ることである。光を対極及び電解液を通して丁iの。層に付着させた染料に到達させるか、または丁iの。層を通して付着染料に到達させることにより照射することができる。染料被覆電極及び対極の両方が透明であるならば、全ての方向からの光を収集することができる。このようにして、直針日光に加えて散乱反射光を収集することができる。このことで太陽電池の総合効率は向上する。
  - 7. 本発明の光電池の更なる利点は、染料を負荷した丁

i ○ TMFの特殊表面構造及び電気特性によって、対極を作用電極の上に直接置けることである。即ち、短絡の形成を避ける目的で2つの電価を離して維持するためにポリマー膜のようなスペーサーを使用する必要がない。 塩料被覆でi ○ \* 層の講電性によって、対極と直接接触したとしても、2つの電極の短絡による急増電流がない。これは、デバイスの構造を単純化してそのコストを下げるが故に、電池の実用化に重要な利点である。

ゾルーゲル法においては、最後の3つ、長後の2つまたは一番上のみの二酸化チタン層を二値または三値金属を用いて15重量%以下の量でドーピングするのが好ましい。しかしながら、純粋なドーパントを極めて深い最上の酸化物層の形態で堆積するのが有利となり得る。後者のケースでは速断層が形成され、これで、半導体一端解液接合部における電流流れは防止される。全てのTiO:層は実施例34に記載のゾルーゲル法によって形成される。堆積するTiO:層の数は10~11であるのが好ましい。TiO: 膜の全厚は5~50ミクロンであるのが好ましい(より好ましくは10~20ミクロンである)。

光増感層は、後述する本発明の染料をTiO1層に独布

することにより生成することができる。

即ち、一連の新規の染料は、有効な光増感刺として作用 するように開発されている。

更に本発明によって、配位子が二座、三座または全座(o anidentate)ポリヒリジル化合物である、未置換のまたは 置換された速移金属(好ましくはルテニウム、オスミウム または鉄)雑体からなる光増感染料が提供される。かかる ビリジル化合物の1種以上は1つ以上のシアノ基を含むの が好ましい。

更に本発明によれば、少なくとも1つの配位子が単核シ アノ合有ビリジル化合物を含む、遷移金属(好ましくほル テニウム、オスミウムまたは鉄)錐体からなる光道感染料 が提供される。

本発明の光増感染料においては1 錯体当たり3 つのルテ ニウム原子及び6つの供与原子があるのが好ましい。

本発明によれば、下記の式(1)~(10)の化合物が提供さ ha:

 $[M(L^{\bullet})(L^{\bullet})(\mu - (NC)M(CN)(L^{\bullet})(L^{\bullet})),]$ 

 $[M(L^{4})(L^{4})(\mu - (NC)M(L^{4})(L^{4})\mu - (CN)M(CN)(L^{4})(L^{4}))_{2}] (2)$ 

 $[M(L^*)(L^*)(\mu - (NC)M(L^*)(L^*)\mu - (CN))_2M(L^*)(L^*)]$ 

トリフェニレン、ジアザーヒドロキシーカルボキシートリ フェニレン(例えば1,12 - ジアザトリフェニレンまたは 1.12-ジアザ(6-ヒドロキシー7-カルボキシ)トリ フェニレン);カルボキシピリジン(例えば2-カルボキシ プリジン);フェニルビリジン;2,2'-ビス(ジフェニル ホスフィノ)-1.1-ピナファレン:(ピリジルアゾ)レゾ ルシノール(例えば4-(2-ヒリジル(アゾ)レゾルシノー ル)); ビス(2~ビリジル)C...アルカン; N.N.N',N' ーテトラC ... アルキルエチレンジアミン: 及びジーC ... アルキルグリオキシム; 2,2'-ピイミグゾール; 2,2' ーピペンズイミダゾール:2、-(2!-ピリジル)-ドーメ ナルベンズイミダゾール;2,-(2'-ピリジル)ベンゾナ オソール: 2.-(2'-ヒリジルメチル)ペンズイミダゾー ルから選択され、

L\*は、(未置換の、または未置換のもしくはCOOHで 置換されたフェニル基によって置換された)テルピリジル(例 ` えば2,2°,6′,2″テルピリジン)及びジカルボキシ-ピリ ジン(好ましては2.6-ジカルボキシーピリジン)ご2.6 - ビス(ベンズイミダゾールー2'-イル)ピリジン; 2,6 ーピス(N-メチルペンズイミダゾールー2'ーイル)ピリ

特表平5~504023	(5)
-------------	-----

$[(L^*)(L^*)(X)M \mu - (NC)M(CN)(L^*)(L^*)]$	(4)
$[M(L^*)(L^*)(X)_{\bar{x}}]$	(5)
[M(L*)(L*)(L*)]	(6)
$[M(L^*)(L^*)(\mu - (NC)M(L^*)(L^*))_{\frac{1}{2}}]$	(7)
$[M(L^*)(L^*)(\mu - (NC)M(L^*)(L^*) \ \mu - (CN)M(L^*)(L^*))_1]$	(8)
$[M(L^*)(L^*) \mu - (NC)M(L^*)(L^*)]$	(9)
[M(L*)(L*)(X)]	(10)

[式中、各Mは独立に、ルテニウム、オスミウムまたは鉄 から選択され、μー(CN)またはμー(NC)は、シアノ茶 が2つの金属原子を架構していることを示しており、

L\*、L\*、L\*及びL\*の各々は独立に、未覆換のまたは 1 つまたは 2 つのCOOH基で置換された 2 , 2'ーピピリ ジル;C . . , 。アルキル、C . - 、 : アルコキシ及びジフェニル から選択される1つまたは2つの基で置極された2.2-^ ビビリジル:未世機のまたは1つもしくは2つのカルボキ シ基で価値された2,21~ビキノリン;未置換の、或いは 1つもしくは2つのカルポキシ葢及び/または1つもしく は2つのヒドロキシ基及びノまたは1つもしくは2つのオ キシム基で置換されたフェナントロリン;4.7~ジフェ ニルー1.10-フェナントロリンジスルホン酸:ジアザ

ジンニ2,6-ビス(ペンゾチアゾール-2'-イル)ヒリジ ンから選択され、

各Xは独立に、ハロゲン化物、H<sub>2</sub>O、CN<sup>\*</sup>、NCS<sup>\*</sup>、 アミン(第一級または好ましくは第二級アルキルアミン)及 び/またはヒリジンである〕。

し"及びし"の一方は、上述のごとを選択される結合基、 好ましくは一COOH及び/またはOH及び/または=N - O H 及び/または - C O - N H a 差を有するのが好まし

テルビリジルは、置換されている場合には、1つ以上の ヒリジル基においてC...アルキル(好ましくはメチル)及 び/またはC;-;=アルコキシ(好ましくはメトキシ)及び/ またはカルボキシによって置換されているのが好ましく、 例えば2,2',6',2"テルピリジンが好ましい。

**≧∼し¹におけるフェナントロリンは、5ーカルボキシ** - 6 - ヒドロキシー 1 , 1 0 - フェナントロリン及び 5 , 6 - ジオキシム-1.10-フェナントロリンから選択され るのが好ましい。

し・~し いにおけるジアザヒドロキシカルボキシトリフェ ニレンは 1 , 1 2 - ジアザー 6 - ヒドロキシー 7 - カルボ

#### 特表平5-504023 (6)

キシトリフェニレンであるのが好ましい。

 $L^{*}\sim L^{*}$ における $C_{1-1*}$ アルキルー $2\cdot 2^{*}$ ーピビリジルは $4-C_{1-1*}$ アルキルー $2\cdot 2^{*}$ ーピビリジルであるのが好ましい。

し。一し。におけるカルボキシビリジンは2一カルボキシビリジンであるのが好ましい。

し'~ L'における(ビリジルアゾ)レゾルシノールは4-(2-ビリジルアゾ)レゾルシノールであるのが好ましい。

本発明の新規の光増感染料は光電池に使用することがで

式(1):

[M(L\*)(L\*)(ル~(NC)M(CN)(L\*)(L\*))」(1) の化合物は、1モルの式(1\*):

M(L.)(L.)Cl.

(14)

の化合物を、2モルの式(1b):

M(L\*)(L4)(CN),

(16)

の化合物と常温より高い温度で反応させることにより製造 することができる。

式(2)の化合物は、1モルの式(1)の化合物を2モルより僅かに過剰量の式(2a):

を 1 モルより過剰の量の配位子形成化合物し \*と常温より 高い温度で反応させることにより製造することができる。

式(7)の化合物は、1モルの式(7 a):

M(L.)(L.)Cl:

(7a)

の化合物を2モルの式(7b):

CN M (L .)(L .)

(75)

の化合物と常温より高い環度で反応させることにより製造 することができる。

式(8)の化合物は、式(8 8):

M(L\*)(L')C1:

(84)

の化合物を2モルの式(8b):

CN M(L')(L')CN M(L')(L')

(86)

の化合物と反応させることにより製造することができる。

式(9)の化合物は、式(9 a):

M(L\*)(L')(H;O)

(9a)

の化合物を 1 モルの式(9 b):

M(L')(L')(CN)

(96)

の化合物と常温より高い温度で反応させることにより製造 することができる。

式(10)の化合物は、1モルの式(10c):

[M(L')(L')(CN)(H.O)]

/n \

の化合物と常温より高い温度で反応させることにより製造 することができる。

式(3)の化合物は、上述の式(1 a)の化合物を1モルの
ボ(3 a)・

 $= ((NC)M(L^4)(L^4)(CN))_2M(L^4)(L^4) = (8a)$ 

の化合物と常温より高い温度で反応させることにより製造 することができる。

式(4)の化合物は、1モルの式(4 a):

M(L\*)(L\*)(X):

(4a)

の化合物を1モルの式(4 b):

M (L 1) (L 1) (C N ).

(46)

の化合物と反応させることにより製造することができる。

式(5)の化合物は、1モルの式(5 a):

M X : (!

の化合物を1モルのし。及び1モルの配位干形成化合物し。 と常温より高い温度で反応させることにより製造すること ができる。

式(6)の化合物は、1モルの式(6 a):

M(L 1)(L 1)C 1:

(6a)

M (#24) (X 1) C I

10c)

の化合物を1モルの配位子形成化合物し、と常温より高い 退度で反応させることにより製造することができる。

更に本発明によって、光電池系に使用するための、ガラス支持体上の透明なTiOs層からなる電極が提供される。かかる透明層は、TiOsコロイド溶液をガラス支持体上に分散させることにより製造するのが好ましい。かかる溶液は、Ti(OCH(CHs)s)s)sを加水分解することにより関製するのが好ましい。

"透明"なる用語は、入射光の70%、より好ましくは 80%がガラスを通過することを意味する。

以下、実施例によって本発明を更に説明する。

#### 実施例 1

配位子2.2'ーピビリジン、4.4'-COOH-2.2 ーピーリジン及びRuCl 3.3 H 3OはAlfa and Pluka製の市販サンアルである。他の全ての材料は試 薬グレードのものであり、更に精製せずに使用した。シス ージクロロビス(4.4'-COOH-2.2-ピピリジン) Ru(II)は公知である。

a) <u>シスージシアノビス(2,2'-ビビリジン)Ru(II)</u>

# 特表平5~504023 (7)

#### の合成(前述の式(5)の化合物に関連)

800mg(1.45mmol)のシスージクロロビス(2. 2 - ピピリジン)を80mlのDMF中に暗所で登集下に 溶解した。これとは別に水に溶解しておいた190mg(2 .91mmol)のKCNをこの溶液に加えた。溶液を遷流 下に3時間加無した。反応の間、暗集色の溶液は推赤色に 変化した。この反応の進行はUV/可視光分光光度計によっ てモニターした。溶液を微細ガラスフリットで沪過し、沪 液を減圧下に蒸発乾固した。未反応の出発錯体を除去する ため、残留物を20m1の水に溶解し、浮通した。浮液を 再び蒸発乾固した。得られた残留物を15m1のエタノー ル中に溶解し、微細ガラスフリットで評通して、生成物化 Clを定量的に除去した。沪液に150m1のジエチルエ ーテルを加えた。濁った存液を冷蔵庫に2時間入れ、その 後、ガラスフリットで拒過することにより沈澱物を回収し た。沈澱物を毎回新たな5m1の2:1エタノールジエチ ルエーテル混合物で3回洗浄し、次いで無水ジエチルエー テルで洗浄し、真空下に乾燥した。収量0.62g、収率 9.0%、この報体の維度は元素分析及び電光準動によって 餌査することができる。

溶液を冷蔵庫に10時間入れ、その後、ガラスフリットで 炉通することにより沈緩物を回収した。沈緩物を、まず2 :5アセトンジメチルエーテル混合物、次いで無水ジエチ ルエーテルで洗浄し、真空下に乾燥した。収量450mg (69%)。

# 実施例 2 (前述の式(1)の化合物に関連)

0.86mmolのRu(II)Lz(CN)zを使用して実施例1cを繰り返し、表1の実施例2に配載の化合物を製造した。

#### 実施例3~8

. \_\_\_\_\_

実施例1に従う方法によって、適当な反応物質から下記の表1に記載の化合物を製造することができる。

# b) <u>シスージシアノビス(4,4,-COOH-2,2,-</u> ビビリジン)Ru(!!)の合成(前述の式(5)の化合物に関連)

この銀体は、単種ステップ及び精製ステップを除いては上述のものと同様の方法によって製造した。反応物質シスー [Ru(4,4'ーCOOH-2,2'ーbpy)\*Cl\*]及びKCNを1:2の比で4時間遺流させた後、溶液を冷やし、微細ガラスフリットで評遇した。評液を減圧下に蒸発・乾固した。得られた残留物をPH6~7の水に溶解し、所図の銀体を、その等電点がPH2.6の中性塩として単離した。

# c) Ru(jl)のシアノ祭機トリマー「RuL, [(NC), RuL, '], ] の合成(前述の式(1)の化合物に関連)

下記の表1に示す錯体は以下のように製造することができる。307ms(0.43mmol)のRuLiCliを30mlのアルカリ性DMF中に暗所で登集下に溶解した。この溶液に400ms(0.86mmol)のRuL'i(CN)を加えた。溶液を進液下に6時間加熱し、室温に冷やした。溶液を類細ガラスフリットで評過し、定液を蒸発乾固した。得られた残留物をpH6~7の水に溶解した。この溶液のpHは3.2に下がり、密な洗澱物が形成された。

		<b>.</b>	
	*****	表 1	
	鏡体	L	r.
1	[Ru(L;((CN);Ru(L*););]	4,4'-(COOE) <sub>2</sub> bpy	2,2'-bpy
2	[Ru(L;((CN);Ru(L););]	4,4'-(COOR) <sub>2</sub> bpy	
3	[Ru(L;((CN);Ru(L'););]	4,4" - (COOH) abpy	4,4'-(He),-bpy
4	[Ru(L;((CN);Ru(L'););]	4,4'-(COOH) abpy	4,4'-(ph)z-bpy
5	[Ru(L:((CN):0s(L'):):]	4,4'-(COOH) aboy	2 .2 -boy
6	RuL (CN)	4.4' - (COOH) ,bay	• .
7	RuL (CN)	2,2°-bpy	
8	RuL; (CN);	4,4'-(Me)sbpy	

但し、"bpy"=2,2′-ビビリジル

"He"=メチル

"pk" = フェニル

#### 表 第 9 ~ 3 3

実施例 I と類似の方法によって、適当な反応物質から表 2 に記載の鎖体を製造することができる。

表 2 中、 b p y は 2 . 2 \* - ビビリジルであり、 b i q は 2 . 2 - ビキノリンであり、 p h e n は 1 . 1 0 - フェナントロリンである。

# 特表平5-504023 (8)

実施例19においては2-フェニルビリジンを使用し、 実施例22においては直弧状及び分枝状アルキル基を使用し、

実施例26においてはN.Nーテトラメチル及びC.C~ テトラメチルエチレンジアミンを使用し、

実施例27においては2,2-ビス(ジフェニルホスフィノ)-1,1'-ビナフチレンを使用し、

実施例28、30及び31においては1.10ーオルトフェナントロレンを使用し、

実施例31においては4-(2-ピリジル)アゾレゾルシ ノールを使用した。

コン以上の	の4.4 ・ジカルボキ	1つ以上の4.4'・ジカルポキシ-2 な'-ピピリジン配位子を有するRa組体のリスト	るRa類体のリスト
Ž.			
	*	7	.1
S [Rul,]	1,1	4,4',5,5'-(0008),-2,2'-bpy	1
10 [Kal.,]	1,3]	3,8-(C00H),-4,7-(0H),phen	
11 [Rul.,]	1,1]	8,8' -(C00H)2-2,2'-bpy	
12 [Ru	12 [Rul., [Ru", Ru""]	4,4' -(OHe) 2-2,2' -bpy	1
13 [R	13 [Kul, (H,0,)]	4,4' - (COOH),-2,2'-biq	•
14 [8	14 [KuL,Cl,]	4.4',5,5'-(C00B),-2,2'-bpy	
15 (R	15 [RuL, (CN),]	4,4' -(C00H),-2,2' -bpr	(
16 (Re	16 [Rul.L' (H.O)]	4,4' -(C00H),-2,2' -bpy	4-(C00B) ビリジン
17 (8	17 [Rul,L' (8,0)]	4,4' -(C008) 1-2,2' -bpr	3.5-(0001)*セリジン
18 [Re	18 [KaL,L' (B,0)]	4,4' - (C003),-2,2'-bpy	アリジン
19 [Aul.1.]	u[,1,]	4,4' -(C00B),-2,2'-bpy	フェニルビリジン
20 [Rul.L.]	ut.t.]	4,4' -(C00H),-2,2'-bpy	4.4' - (C00B) 1-2.2-biq
21 [Aul.L']	L,L' J	4,4' -(C00H),-2,2'-bpy	4.4' - (7 x = A) 1-2,2-bpy
22 [Rul,L']	וריו.)	4,4' -(C00B) 2-2,2' -b9y	C. , B., , -2, 2' - bpy
23 [Rul,L']	il.i.]	4.4' -(C009),-2.2'-bpy	4,4'-(Me),-2,2'-bpy
24 [Rul.1.]	1,1,1	2,2'-bpy	1,10-フェナントロリン-5,8-ジオキシム

実施例 1 ~ 3 3 の 4 体 は 光 増 感 染 料 と し て 有 効 で ある こ と が 判 り 、 本 発 明 の 光 電 池 に そ の ま ま 使 用 する こ と が で き

#### 実施例34

好ましい光電池を図1を参照して示す。

伝導性ガラスに支持されているアルミニウムドープ二酸 化チタン酸の増感に基づく光電デバイスを以下のように製造した。

新たに留出させた21mmo1のTiCl、を10mlの無水エタノール中に溶解することにより、有機二酸化チタン前駆体のストック溶液を調製した。エタノール溶液中のTiCl、は自発的にチタンアルコキシドを与え、これを加水分解してTiOュを得た。次いでストック溶液を更なる。水エタノールで希釈して、チタン含有量がそれぞれ25mg/ml(溶液A)及び50mg/ml(溶液B)の2種類の溶液を得た。アルミニウム含有量が1.25mg/mlになるまでA1Cl。を加えることにより、溶液Bから第3の溶液(溶液C)を調製した。Asahi:Inc.日本提供の表面積10cm²、可視光透過率85%以上及び表

数			نا
23	25 [Rul,L']	4,4'-(C008),-2,2'-bpy	25 [Aul.1.'] 4.4'-(COGG),-2.2'-bpy 1.2-EX(2-EU 3/h)x9>
82	28 [Rul,1']	4,4' - (COOH) 2-2,2' - bpy	(Ne),-エチレンジアミン
23	27 [Rul,L]	4,4' - (C00H) 1-2,2' - bpy	ピナフチル
82	28 [Rat.L.]	4,4' - (COOH) 2-2,2' -bpy	3,8-(COUH):-1,2-(OB):phen
62	29 [Rul,1']	4,4' - (COOR) 1-2,2' -bpy	ジメチルグリオキシム
8	30 [Ral,1.]	4,4' -(C00H) 2-2,2' -bpy	4,7-(0H):-1,10-phea
=	31 (Rul,t')	4,4' -(C008),-2,2' -bpy	2-アゾピリジルレブルシノール
33	32 (Rul,L')	4,4'-(7x=1),-2,2'-bpy	4,4' -(CUOB) 2-2,2' -bpy
83	33 (Rul,L')	4,4' - (7' x = 1/4),1-2,2' -bpy	4,7-(0H)z-1,10-phen

## **转表平5-504023 (9)**

して550でまで加無し、この温度に35分面維持した。 この処理によって、表面程度が80~200の鋭差石膜が 生成された。

連続アルゴン弦下に冷却した後、ガラスシートを直ちに 発色団のアルコール溶液に移した。使用した発色団はトリ マールテニウム最体:

[Ru(L:)[(CN);RuL:'],]

(式中、しは2,2'-ビビリジル-4,4'-ジカルボン酸であり、し'は2,2'-ビビリジルである]

であり、無水エタノール中のその過度は5×10・Mであった。電極表面にヒドロキシル基が存在すると染料の取込みを妨げるが故にTiO2表面のヒドロキシル化を防ぐため、染料吸着的に限を周囲の空気に長時間暴露するのは避けた。 発色団をエタノール溶液から30分間吸着させ、次いで、 ガラスシートを取り出し、無水エタノールで簡単に洗浄した。シート上のTiO2層は、発色団コーティングのため に遅紅色となった。

O.5M LII及び3×10<sup>-3</sup>M ヨウ素のエタノール 溶液を含む道常の3桶電気化学セルを使用し、このような 膜を用いて待られる光電液(photocurrent)作用スペクトル

染料を堆積する前に、フィルムを99.997%の高度 精製アルゴン中で焼結処理した。適当な難目を有する石英 等からなる水平管状オープンを使用した。T10;膜を有 するガラスシートを挿入した後、管を2回排気し、アルゴ ンでパージした。次いでガラスシートを、波量2.5リッ トル/時間のアルゴン還流下で温度勾配を500℃/時間と

を、太陽光放射のAM 1スペクトル分布と一緒に流行の 図面に示す。入財単色光子から電流への変換効率(IPC E)を励起波長の関数としてプロットした。これは、式:

(1) IPCE(%) = [(1.24×10<sup>-2</sup>)·×光電旅密度(μ λ/cm<sup>2</sup>)] [被長(nm)×光子束(N/m<sup>2</sup>)]

から薬出した。光電液作用スペクトルと太陽放射の重なり から、太陽光から電気への交換の総合効率では、式:

(2) n = 12 × 0CV × FF(%)

(式中、OCVは開回路電圧であり、FFは光電池の充填係数である)

で計算される。

式2の実験的検証のため、透明な伝導性二酸化スズ層(6)とホトアノード(photoanode)としてのガラス基数(7)とからなる伝導性ガラス(作用電極)に支持された、発料(4)を負荷したTiOz(5)版を使用し、抵付の図面に示した光電池を構築した。この電池はサンドイッチ機の構造を有しており、作用電極(4~7)は、厚さ約20ミクロンを有する遅い電解液層(13)によって対極(1,2)から分離されている。使用した電解液は0.5M LiI及び3×10 - 3M ヨウ素のエクノール海液であった。電解液(3)は、

電池の関部に取り付けられた小さな円筒形の溜め(図示な し)内に入れられており、そこから毛管作用によって電極 間のスペースに引き込まれる。対権は、やはりAsahi 伝導性ガラスでできているガラス基板(1)上に堆積されて いる伝導性二酸化スズ瘤(2)からなり、作用電極の上に直 接置かれている。ヘキサクロロブラチネート水溶液で電気 めっきすることにより、透明なプラチナ単分子屋を対極(1 -2)の伝導性ガラス上に堆積した。アラチナの径割は、対 種におけるヨウ素の電気化学選元を増強することである。 対儀が透明であるのは、前方及び後方の両方向から光を収 集できるため、光葉用途に有利である。 A M 1 太陽照射を シミュレートするための適当なフィルターを備えた高圧キ セノンランプを用いて実験を実施した。光の強度は50~ 6 0 0 ワット/m \*の範囲で変えることができ、閉回路電圧 はがある2つの電圧においてそれぞれ660及び800m ♥であった。電池の最大電気出力を、開回路電圧と短路電 流の積で除算したものと定義される充填係数は 0.7~0. 75Vであった。単結晶シリコン電池は600Ψ/m²の入 射光強度においては550mVの薬回路電圧を与えたが、 50W/mºにおいては300mV以下にまで降下した。

## 特表平5-504023 (10)

これは明らかに、本発明の電池がシリコン太陽電池よりも高い側回路電圧を有し、しかも南回路電圧がシリコン電池よりも光の強度に依存しないことを示している。このことは、このような電池を非直射日光または軽天条件下で使用するのにかなり有利である。シリコン電池の充填係数は本実施例のそれと同じ程度である。本実施例の電池の太陽光から電気への全変換効率は、式2の推定量と一致して5~6%である。

#### 実施例35

3

伝導性ガラス支持体上に堆積して焼結すると高度に多孔 質の干渉性半導体膜を与える二酸化チタンコロイド粒子か ら透明なTiOzを得た。この膜は透明であって、実施例 34のTiOz層膜の代わりに使用し得る。

チタンイソプロボキシドを以下のように加水分解することにより、約10 nmの酸化チタンコロイド粒子を顕製した:

125mlのチタンイソプロボキシドを、750mlの水中に0.1M弱酸を含む溶液に撹拌しながら加えた。かかる条件下で非晶質二酸化チタンの沈澱物が形成された。

なった。焼箱の間に著しい粒子の成長が生じたことは明らかである。

増売利RuLs(ここでLは2,2'-ビビリジルー4,4'-ジカルボン酸である)再生電池と一緒に、透明なT1O。 度の可視光からの電気生成について試験した。結果は、シミュレート日光(強度約30W/m\*)下の光電流を電池電圧の開致としてプロットして表わすことができる。かかる条件下での原回路電圧は0.52Vであり、短絡電流は0.381mA/cm\*であった。充填係数は0.75であって、効率5%を与えた。同じ条件下で市販のシリコン光電池は短絡電流1mA、原回路電圧0.4V及び変換効率10%を与え、変換効率のみが、二酸化チタン顕を用いて得られるよりも2倍高いファクタであった。

#### 実練例36

寸法 2 × 9 . 6 c m \*を有する伝導性ガラスシート(A S A H I)(表面抵抗約 1 0 Ω/c m \*)を、実施例 3 5 の方法. に従ってコロイド状二酸化チタン膜で被覆した。全部で 7 つのTiΟ ェコロイ・ド層をスピンコーティングによって順次堆積したが、その郵度膜を 5 0 0 でで 3 0 分間が焼した。 これを激しく撹拌しながら約8時間で80℃にまで加熱すると、沈澱物のペアチゼーションが起こり、鋭葉石の週明コロイド溶液が形成された。二酸化チタン粒子の截葉石構造はレーマン分光法によって立証された。溶剤を返温で真空下に、コロイド粒子を含む粘性液体が得られるまで原発させることにより、ゾルを過感した。この時点で、素板に塗布したときの肌のひび割れを少なくするため、非イオン性界面活性剤TRITON X-100(TiO:の40量量%)を加えた。

二酸化チタン腺は、漁糖ゾルを伝導性ガラス基板上にスピンコーティング(spin coating)することにより形成した。 増感剤の単層を堆積した後に優れた可視光収集効率を与えるのに十分な表面積の半導体膜を得るためには、通常は6~10の層を埴布すれば十分である。

低分解能電子顕微鏡調査により、一番下の層がガラス支 特体であり、次が厚さ 0.5 ミクロンのフッ素ドープ S n O a であり、最後が厚さ 2.7 ミクロンの二酸化チタン層で ある 3 層構造の存在が確認された。高分解能電子顕微鏡調 査からは、TiO a 膜は、平均粒保約 1.6 n m を有する相 互に連結した粒子の 3 次元網構造からなることが明らかと

膜のせび割れを防ぐために、30%(w/w)のTRITO N X 405界面活性剤を加えた。

二酸化チタン酸の最終的な厚さは、光学干渉バターンから判定したところうミクロンであった。TiO。堆積後の伝導性ガラスシートは透明のままであり、可視光及び近赤外光に対して透透性であったことに留意することは重要である。通常の分光光度計に記録された透通スペクトルは、400~900nmの被長域にある可視光の60%以上のフラクションが膜を透透したことを示した。電極のUV/可視光吸収スペクトルを得ることもできる。伝導性ガラス及び厚さ5nmのTiO。層による光の吸収及び散乱のため、可視光に平坦特性(flat feature)が認められた。400nm以下の吸収の急増部分は、TiO。のバンドギャップ吸収に起因するものである。

条章で被覆する直割に、版を500℃で1時間火仕上げ (fire)した。 T101を染料で被覆するのは、トリマール テニウム器体RuL\*(CNRuL'\*CN)\*(ここでしは2, 2ーピピリジルー4.4'ーカルボキシレートであり、し' は2,2'ーピピリジルである)を含むエタノール溶液中に ガラスシートを16時間浸渍することにより行なった。被

#### 符表平5-504023 (11)

関係、ガラスシートは強い深紅色に変色した。通常のUV /可視光分光光度計で測定した光吸収スペクトルは、50 0 nm近傍で信2を越える吸収を示し、これは、この彼長 域において99%以上の光子が、二酸化チタン膜上に堆積 された染料によって吸収されたことを示している。染料の 後度が高いので多孔質膜は400~750 nmの極めて広 いスペクトル範囲で光子を収集し得たことに留意すること が重要である。

操料堆積後、ガラスシートを、各々が寸法約9cm \*を 有する2つの部分に切断した。これらのシートは、その組立ては後述するモジュールにおいて作用電板(ホトアノード)として作用する。

遠明な対極は、作用電極と同じタイプのASAHI伝導性ガラスで製造した。対極はTIO=で被覆しなかった。その代わりに、10個のアラチナ単層の等価物を伝導性ガラス上に電気化学的に堆積した。対極の透明性はアラチナの堆積によって影響されず、可視光及び近赤外光におけるその透過率は60%以上を維持した。プラチナは電極触媒として作用し、対極における電子移動仲介物質、即ち三ヨウ化物の還元速度を増大する。ガラスシートの縁都近くの

は約3 W/m \*であった。かかる条件下でモジュールの短絡光電波は0.76 m A であり、電池の充填係数は0.73 であり、昼光から電力への全変換効率は11%であった。比較すると、同じ条件下で寸法1 c m \*の市販シリコン電池は、短絡光電波0.17 m A、開回路電圧0.21 V、充填係数0.5、及び全変換効率6%を示した。上記結果を比較すると、数乱昼光下でのTiO\*電池の性能は通常のシリコンデバイスよりも優れていることが明らかに判る。翌日の早期に直射日光下で最終試験を実施した。約600 W/m \*の太陽強度において出力電波は60 m A であり、開回路電位は1.5 Vであった。電池の充填係数は伝導性ガラス中の抵抗損のために0.6に低下し、総合効率は5.6%となった。

#### 実施例37

好ましい光電池を図1を参照して示す。

透明なTiO。膜の増感に基づく光電素子は、伝導性ガラス支持体上に堆積し焼結すると高度に多孔質の干渉性半導体膜を与える二酸化チタンコロイド粒子から製造した。

チタンイソプロポシキドを以下のように加水分解するこ

対性の表面内に、深さ約1 mm、幅約1.5 mm及び長さ 約20 mmの2つのくぼみを設けた。これらは電解液泡め として作用する。

対極は、サンドイッチ機構造を与えるように作用電極の 直ぐ上に置いた。溜めに電解液を充填した後、電池を工ポ キシ樹脂で封止した。2つの電極間のスペースは毛管作用 により電解液によって自発的に温潤化した。電解液は、エ タノール中に0.5 M テトラプロピルアンモニウムヨージ ド及び0.02 M ヨウ素を含む溶液であった。

このようにして、各々が表面積約9 c m \*を有する2つの電池を製造した。次いでこれらを、一方の電池のホトアノードを第2の電池のカソードに電気的に接続することにより直列に接続した。このようにして、全表面積18 c m \*を有するモジュールを製造した。

このモジュールの性能は、被長520nm及び強度0.38W/m の単色光を基準にして示すことができる。0.115mAの短絡光電波は、入計単色光子から電流への変換効率74%に対応した。充集係数は0.74であり、単色電力変換効率は520nmにおいて12%であった。

自然光条件下で結果を出すこともできる。全入射光強度

とに正う、約8nmの二酸化チタンコロイド粒子を興製し n

125mlのチタンイソプロポキシドを、750mlの 水に 0.1 M 硝酸を含む溶液に搅拌しながら加えた。かか る条件下で非晶質二酸化チタンの沈澱物が形成された。こ れを激しく損拌しながら約8時間で80℃にまで加熱する と、沈澱物のペプチゼーションが起こり、鋭錐石の遠明コ ロイド溶液が形成された。加水分解によって形成されたア ロバノールは加美の間に募発した。次いでコロイド溶液を チャン金属またはテフロンの圧力容器内で140~250 で、好ましくは200℃で2~20時間、好ましくは16 時間オートクレーブ処理した。幾分かの沈澱物を含む得ら れたゾルを推辞または振盪して沈澱物を再懸濁させた。得 られたゾルから再感激しなかった沈澱物を除き、溶剤を室 進で宴空下に、コロイド粒子を含む粘性液体が得られるま で蒸発することにより、ゾルを濃縮した。この時点の典型 的な遺皮は200g/リットルである。この時点で、ひび 割れせずに堆積する層の厚さを増大するために例えばUn ion Carbide Carbowax 20M±tt Triton X-405のようなポリエチレンオキシド

**转表平5~504023 (12)** 

ポリマーを加えることができる。ポリマーは、TiO<sub>1</sub>の30~50、好ましくは40萬量%の量で加える。

増感用電極はコロイド溶液から以下のように形成した: 連当な基板、例えばAsahi Corp.製の伝導性 散化スズ被覆ガラス(チタン金属または任意の平坦な伝導 性表面)の例えば3×6cmの断片を伝導性表面を上向き にして置き、適当なスペーサー、例えば厚さ50~100 ミクロン、好ましくは80ミクロンのアラスクッチテープ を各縁に沿って取り付けた。遊量のゾル、例えば上記基板 に対しては200g/リットルのTi0,及び40% Ca г b o w a x 20 M を含む150 μ l のゾルを基板の一 方の蟷部に沿ってピペットで添加した。ゾルを、その場部 がスペーサーに取っている縁が平らなガラス片を用いて引 きのばすことにより基板上に広げた。即ち、スペーサー」 ゾルの粘度及びゾルの濃度によって堆積されるTiOzの 量が削削される。このように広げた膜を空気中で、目視で 乾燥していると思われるまで乾燥し、好ましくは更に20 分間乾燥した。乾燥後、電極を400~500℃、好まし くは450℃で20分間火仕上げした。170℃以下でオ ートクレーブ処理したゾルの場合には、40ミクロンより

<u>.</u>

が、RuLiNCSiまたはRuLiL',HiO(ここでしては2,6-ビス(N-メチルベンズイミダゾール-2'-イル)ビリジンである)のエタノール溶液も同等に好ましい。 増速剤に従って、電極が完全量色するには4~24時間が必要である。完全量色は、目視によってまたは種々の時点の染料の可視光透過スペクトルをとることにより測定することができる。

無料溶液から取り出した後、以下のように電極から光電 池を製造した。

透明な対極は作用電極と同じタイプのASAHI伝導性ガラスで製造した。対極はTiOiで被覆しなかった。その代わりに、10個のプラチナ単層の等価物を伝導性ガラス上に電気化学的に堆積した。対極の透明性はアラチナの堆積によって影響されず、可視光及び近赤外光におけるその透過率は60%以上を維持した。プラチナは電極触媒として作用し、対極における電子存動仲介物質、即ち三ヨウ化物の還元速度を増大する。或いは、上述のごとくPtで被覆した場合によっては多孔質の薄いチタンシートを対極として使用することもできる。多孔質シートの場合には、プラスチック、ガラスまたは金属のような不透過性材料の

小さいスペーサを使用せねばならず、厚さ8~10ミクロンのTiO:膜を得るためには上記工程を2回繰り返さねばならない。

上記方法により、10cm×10cmまでの電極を製造 した。更に、スピンコーティング及び浸漬コーティングに よってゾルを基板に塗布することもできる。

別のマートが対極の背後に必要とされる。

ガラスシートの縁部近くの対極の表面内に、深さ約1 mm、幅約1.5 mm及び長さ約20 mmの2つのくぼみを彫り込むことにより、電解液溜めを設けた。この溜めはガラスシートの外部に加えることもできるし、多孔質対極の場合には対極の實験に置くこともできる。

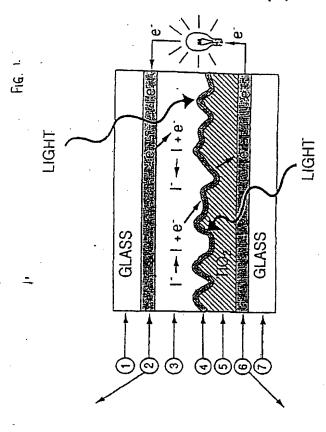
対極は、サンドイッチ機構造を与えるように作用電極の 直ぐ上に置いた。溜めには、前述のものから選択された電 解液、好ましくは85重量%の炭酸エチレン、15%の炭 酸プロピレン、0.5 Mョウ化カリウム及び40mMョウ 素を充填した。所望の電圧に使う量のL11またはテトラ アルキルアンモニウムョウジドを存在させることもできる (好ましくは20mM)。電池は、超紙した溶剤と相容性の シーラントで縁に沿って對止し、接着剤で密着させた。シ ープをト及び接着剤は同じ材料、例えばアルコール溶剤の 場合にはシリコン接着剤、また炭酸エチレンの場合にはポ リエチレン及びエポキシ機器(または機械的関係)とするこ とができる。2つの電極間のスペースは毛管作用により のに注入した電解液によって自発的に温潤化した。

前述のタイプの光電池は、シミュレート日光80mW/

# 特表平5-504023 (13)

cm \*のもとで最高12mA/cm \*の短絡電流及び最高830m Vの開回路電圧を生成した。最も効率的な組合せは9.6mA/cm \*及び620m Vであって、このときの充填係数は50%、エネルギー変換効率は3.8%であった。60%以上の充填係数が避定された。

実施例34~37のルテニウム錯体に代えて実施例1~ 33の他の実施例の錯体を光電池に使用することもできる。



#### 置.数

一連の二酸化チタン層が付与されたガラスアレートまた は透明ポリマーシート上に堆積された光透過性等電層であっ て、少なくとも最後の二酸化チタン層(必要によっては最 使から2番目及び最後から3番目の層も)が、二個または 三個金属から選択された金属イオンでドーピングされてい る際電層を含む光電池。



特許庁長官 麻生 蒙 殿

平成4年10月16日 3

1. 特許出願の表示 PCT/EP 91/00734

2. 発明の名称 光電池

3. 特許出顧人

住 所 スイス国、ツエー・ハーー1015・サン・シュルビス、シュマン・ドユ・

氏 名 グレツエル、ミヒヤエル

4.代 選 人 東京都新宿区新宿 [丁目 ]香1(号 山田ビル

(6204) 井原十 川口 # #678

(ほか3名)

5. 編集者の提出年月日 1992年7月13日

6. 松附書類の目録

(1) 補正書の翻訳文



1運

#### 讃求の範囲

\_\_\_\_\_

- 1. i) ガラスアレートまたは透明ポリマーシート上に堆 種された光透過性確定層と、
- ii)前記光速通性導電層に付与された1つ以上の好ましくは多孔質で高表面積の二酸化化チタン層と、
- iii) 少なくとも最後の二酸化チタン層(必要によっては 最後から2番目及び最後から3番目の層にも)に与えられ たドーパントであって、二値金属イオン、三値金属イオン 及びホウ素から選択されているドーパントと、
- iv) 解記ドーパント含有Ti〇 1 個に塗布された光増感 割であって、結合薬によってTi〇 1 個に付着しており、 酌配結合薬が、カルボキシレート薬、シアノ薬、ホスフェ ート薬、並びに、オキシム、ジオキシム、ヒドロキシキノ リン、サリチレート及びαーケトーエノレートから選択されたπ伝導性を有するキレート化薬から選択されている光 増成剤

とを含む太陽光応答性光電池。

2. i) 少なくとも一方が透明であり且つ60%以上の可 視光透過率を有する2つの電極であって、アレートがこれ ら電極間の中空部を規定するように配置されており、前記

- 5. 前記光増感剤が、ルテニウム、オスミウムもしくは鉄 緑体、または1つの超分子錐体中の2つもしくは3つの遷 移会属の組合せである請求項1から4のいずれか一項に記 載の光電池。
- 6 前記光増感剤が、配位子が二座もしくは三座または全 座ボリビリジル化合物である、未置換のまたは置換された 通移金属鉛体である請求項1から5のいずれか一項に記載 の光電池。
- 7. 前記光増感剤がルテニウムまたはオスミウム錯体から 選択されている前文項5に記載の光電池。
- 8. 前記光増感剤が、化合物:

 $[(L')(L')(X)M \mu - (NC)M(CN)(L')(L')]$ 

- $[M(L^{*})(L^{*})(\mu (NC)M(CN)(L^{*})(L^{*}))_{1}]$  (1)
- $[M(L^{4})(L^{4})(\mu (NC)M(L^{4})(L^{4})\mu (CN)M(CN)(L^{4})(L^{4}))_{2}]$  (2)
- •
- $[M(L^{\bullet})(L^{\bullet})(\mu (NC)M(L^{\bullet})(L^{\bullet})\mu (CN))_{2}M(L^{\bullet})(L^{\bullet})]$  (3)
- $[M(L^*)(L^*)(X)_*]$  (5)
- $[M(L^*)(L^*)(L^*)]$  (6)
- $[M(L')(L')(\mu (NC)M(L')(L'))_1]$ (7)
- $[M(L^*)(L^*)(\mu (NC)M(L^*)(L^*)\mu (CN)M(L^*)(L^*))_*]$ (8)
- $[M(L^*)(L^*)\mu (NC)M(L^*)(L^*)]$  (9)

中空部内にはレドックス系を含む電解液が位置しており、 抑記一方の適明な電極が電解液接触二酸化チタン膜を有し ており、抑記膜の電解液接触表面が請求項1に記載のドー パントによってドーピングされており、鼓膜に請求項1に 記載の光増級剤が結布されている電極と

ii) 該電池によって生成された電流の通行を可能とする 手段

とを含む請求項1に記載の太陽光広等性光電池。

- 3. 1) 孤移金属錯体光増感剤で被覆した、厚さ0.1~50ミクロンを有する二酸化チタン原を堆積した第1の準 電性アレートであって、TiO:膜の少なくとも最後の層 が請求項1に記載のドーパントでドーピングされているア レートと、
- ii) TiO:被覆は含まず且つ薄い電解液層によって前 配第1のアレートから分離されている第2の伝導性アレートとを含む光電池であって、少なくとも一方のアレートの 可視光速過率が60%以上である光電池。
- 4. 前記結合基が、カルボキシレート基及びシアノ基から 選択されている請求項1から3のいずれか一項に記載の光 電池。

#### [M(L=)(L')(X)]

(10)

【式中、各Mは独立に、ルテニウム、オスミウムまたは鉄から選択され、 $\mu - (C N)$ または $\mu - (N C)$ は、シアノ基が2つの金属原子を架構していることを示しており、

し。、し、し、及びしの各々は独立に、未置機のまたは 1つもしくは2つのCOOH基で関携された2,2'ーピヒ リジル: C . - . • アルキル、 C . - . • アルコキシ及びジフェニ ルから選択される1つまたは2つの基で置換された2.2 - ピピリジル・未定体のまたは1つもしくは2つのカルボ キシ基によって置損された2,2'ーピキノリン;未置換の、 或いは、1つもしくは2つのカルポキシ基及び/または1 つもしくは2つのヒドロキシ蟇及び/または1つもしくは 2 つのジオキシム芸で賃款されたフェナントロリン: パソ フェナントロリンジスルホン酸:ジアザーヒドロキシーカ ルガ薯シートリフェニレン;カルボキシピリジン;フェニ ルピリジン:2.2'-ピス(ジフェニルホスフィノ)-1. 1'-ピナフタレン:(ピリジルアゾ)レゾルシノール;ビ ス(2-ピリジル)C 、-、アルカン; テトラC 、-、アルキルエ チレンジアミン:及びジーC , , , アルキルグリオキシムか ら遊択され.



(4)

# 特表平5-504023 (15)

国 縣 縄 宝 報 告

し"は、(未置換の、または未置換もしくはCOOHで置換されたフェニル基で置換された)テルビリジル及びジカルボキシ-ビリジン(好ましくは 2,6 - ジカルボキシービリジン)から選択され、

各Xは独立に、ハロ、HiO、CN、アミン(第一級また は第二級アルキルアミン)及び/またはピリジンである〕 から選択されている請求項1から7のいずれか一項に記載

9、ガラス支持体上の透明なTiO。層からなる電板。 10. 請求項8に記載の式(1)から(10)の化合物からな る光増感剤。

Int.Cl.5	H 01 G 9/20 H	D1 M 14/00 G 03 F	7/029
. PIELDS SEARCHED	<del></del>		
Carrier or braue	Mhiore De		
		Chattleman System	
Int.Cl.5	H D1 G	H 01 M C D4	9 8 57
	Detroprison funded of the Control of	obst ying Minimum Compression me see (extend in the Field Sustain)	
H. POCUMENTS CONE	CEASE TO BE MILEVANT		
Company * ( Company	of Darkson, il was reduced, were ap-	mercon, of the empton portages if	Reserved to Carlo Ha
Y US	A,4137210 (S.K. DEB et	-1.3.95	
Sep	tember 1978, see the wh	ole document	1,9
^			2
1 198	n Solid films, volume 1 6. Elsevier Segunia (NL	45, no. 1, December ) F.A. Soliman et al.: bsorption range of TIDZ	1,9
thi	e films by chromium and 67, see abstract	cadelum deping", pages	
	A.0333641 (GEBRUOER SU Camber 1989, see the wh		1-7,9
X WO.	A.8505129 (STIFTUNG) 2 5, see pages 1-4	!] November	10
_			
. Shared or pro-	The survivale : **  The private state of the set which is our particular planes.  The private state of the set which is our particular planes.	"I" have demonstrated about of arrange of a country data and and at a country data and the pathodal about to pathodal about the pathodal about the pathodal arrangement.	the personal filling date the title personal date to the personal date to the personal date
Appendix of the color of the co	The property of the second section of the second section sec	The demonstrate of personality relativistic fluctuation and personal complete or personal complete or personal complete or personal complete or personality or personal complete or personality or person	all the state-of ty-species pages to associated as as the state-of the state of as the state and state of as many other seal decis-
	Profes of the Secondary Change date has	name and management being in the art. "A" dominate publish of the page.	
IN: CERTIFICATION			
Dani er ers armi Co <del>nçon</del>	no of the televarions found.	Does of Markey of the formus	and Service Super
20-	11-1991		20. 12. 91
(Distance of the State of the S	OPEAN PATENT OFFICE	Signature of Comments Officer	A DONTENSEN

i. DOCLARE	THE COMMISSION OF SELECTION OF SECOND SHEETS	EP 91/00734
- teres	- Столе о' реголит, так неберва, чени аврестика о' гос тогоск разверя	Reference on Casas N
٠	Patent Abstracts of Japan, volume 7, no. 48 (P-178)[1193] 24 February 1983, & JP, A, 57-195241 (AfCOM) 30 November 1982, see abstract	10
	•	

Internetion Austication No. PCT/ EP91 /0	073
FURTHER DIFORMATION. CONTINUED FROM THE SECOND SHEET	_
'	
	_
V. COSCRIVATION WHERE CERTAIN CLAIMS WARE FOUND UNSEARCHABLE!  This informational source round not not been excessional in respect of certain stating under Article layer as informing repeated.	_
1. Galle nations begand they read to believe and reported by the Addition country of the paper and reported by the	
2. Got it rendered impregnants as outs on many tigs or arranging interception and the interception in particular tigs on the control on a count of the interception in a count of the interception in a count of the interception.	_
4. Company to second and store community or PCT Raje & logs.	-
AIM DEFENDATIONS ANTER CHILL OF BLANKSLICH IS PACKED .	_
The secondary of Secondary Architects found study for secondary of the sec	_
1. Claims 1-9 Z. Claim 10	
A CONTRACT OF THE RESIDENCE ADDRESS AND THE THE SECURITY SPECE AND ADDRESS. THE DESTRUCTION SHOWS READ ADDRESS AND	
Ac purp resent of the retermine benefitines beauty force years and any experience, the externational pursue proper only     Beauty solidary of the information payments for chinal deep ways good, agreed/eithy about.	
De control restriction on the control transport and the control by the appellant. Community by a parameter broad in the Control by the appellant and control by decision and control by the control by decision and control.	
The distribution for the destroy of the destroy of the account by class parameter.	
De all humanistre district and the manufact artificial differ partitions (as, and interfedence Describing Additional dag.  Reduced to all produced day individual lag.  Reduced to all produced day individual lag.	
The additional sources (unit works augusty product) by suppository product.	
One process the papers of experience that	

harm PCT/SA/\$10 (magazinamia: migal (31) - PS/128 (Sir

EP 9100734 SA 46627

Parish Interests fitted in parish report	Positiveses Late	Paper	ens?	Palacades
US-A- 4117210	26-09-78	Hone		
EP-A- 0333641	20-09-85	CH-A- JP-A- US-A-	674596 1220380 4927721	15-05-90 04-09-89 82-05-90
NO-A- 8505119	21-11-85	EP-A, B JP-T- US-A-	0179823 61502402 4684537	07-05-86 23-10-86 04-08-87
•				
		•		
		·		
		•		
	•			

第1頁の続き

砂1990年11月15日

のイギリス(GB)

⑤199024831.1 優先権主張

伊 発明 者

ナゼールツデイン,モハンマ

ド・カジヤ

オリーガン, プアイアン

スイス国、ツエー・ハーー1022・シャパンヌ、アブニュ・ドユ・テ

イール・フエデラル・81

スイス国、ツエー・ハーー1800・ブベー、シュマン・デ・シトル・